

木更津工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	コンピュータ演習II
科目基礎情報					
科目番号	0051		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	情報工学科		対象学年	1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	新・明解C言語 入門編 (柴田望洋: SB Creative)				
担当教員	米村 恵一, 和田 州平				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ演習 I で学習した内容が定着し、活用できること。</li> <li>・「関数」を理解し、プログラム作成に活かせること。</li> <li>・コンピュータ演習 I からの学習内容を活かして現存のプログラムを改良でき、新しいプログラムを企画・作成することができること。</li> </ul>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	コンピュータ演習 I の内容を理解できている。	ある程度、コンピュータ演習 I の内容を理解できている。	コンピュータ演習 I の内容を理解できていない。		
評価項目2	C言語によるプログラミングを作成することができる。	C言語によるプログラミングを作成することができる。	C言語によるプログラミングを作成することができない。		
評価項目3	学習した内容を活用してプログラミングを改良ないし新たに企画・作成することができる。	ある程度学習した内容を活用してプログラミングを改良ないし新たに企画・作成することができる。	学習した内容を活用してプログラミングを改良ないし新たに企画・作成することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は、「コンピュータ演習 I」で学習した内容を復習し、改めて計算機に慣れることに重点を置く。</li> <li>・その後、C言語プログラミングにおいて「関数」を取り扱うことで、一層のプログラミングへの慣れと理解を促進する機会とする。</li> <li>・後半は、自身で作るモノを決め、プログラミングにより実現する「プロジェクト実習」を行う。</li> </ul>				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義は、演習を中心とした授業とする。</li> <li>・基本的には配布資料により、演習課題を行う形を取る。</li> <li>・わからない場合には、まずは教科書を使って「自分自身で調べる」ことが大切である。</li> <li>・どうしてもわからない場合には、学生同士で助け合いながら解決することも有効である。</li> <li>・成績の算出方法: 中間課題 (50%) と定期課題 (50%) の提出を求める</li> </ul>				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	関数	関数を理解する	
		2週	関数	関数を理解する	
		3週	関数を用いてデジタルICを実現する	関数を用いたデジタルICの実現方法を理解する	
		4週	関数を用いてデジタルICを実現する	関数を用いたデジタルICの実現方法を理解する	
		5週	関数を用いて半加算器を実現する	関数を用いた半加算器の実現方法を理解する	
		6週	関数を用いて半加算器を実現する	関数を用いた半加算器の実現方法を理解する	
		7週	関数を用いて全加算器を実現する	関数を用いた全加算器の実現方法を理解する	
		8週	関数を用いて全加算器を実現する	関数を用いた全加算器の実現方法を理解する	
	4thQ	9週	プロジェクト実習 (1)	作成したいアプリケーションを企画立案を行う	
		10週	プロジェクト実習 (2)	作成したいアプリケーションを企画立案を行う	
		11週	プロジェクト実習 (3)	企画立案したアプリケーションを、プログラムにより作成する	
		12週	プロジェクト実習 (4)	企画立案したアプリケーションを、プログラムにより作成する	
		13週	プロジェクト実習 (5)	企画立案したアプリケーションを、プログラムにより作成する	
		14週	プロジェクト実習 (6)	成果物の質を高める	
		15週	プロジェクト実習 (7)	成果物のプレゼンテーションをする	
		16週			
評価割合					
		中間課題	定期課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		30	30	60	
専門的能力		10	10	20	
分野横断的能力		10	10	20	